

印旛地区教育研究集会

国語科「話す・聞く」分散会提案

研究主題

主体的に考え的確に表現する力を身につける指導の工夫



四街道市立四街道中学校

目次

- 1 研究主題
- 2 主題設定の理由
 - (1) 学習指導要領から
 - (2) 学校教育目標から
 - (3) 生徒の実態から
- 3 研究仮説
- 4 研究基本構想図
- 5 実践例
 - (1) 第1学年の実践
 - (2) 第2学年の実践
- 6 成果と課題

1 研究主題

主体的に考え的確に表現する力を身につける指導の工夫

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領から

国語科の目標は、次のとおりである。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す。

(1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

(2) 社会生活における人とのかかわりのなかで伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。

(3) 言葉が持つ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

国語を正確に理解する資質・能力とは、国語で表現された内容や事柄を正確に理解し、国語を使って内容や事柄を適切に表現することである。正確に理解する資質・能力と、適切に表現する資質・能力とは、連続的かつ同時に機能するものであるが、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには国語で表現された様々な事物、経験、思い考え等を理解することが必要である。

学習指導要領より、思考力・想像力を養うために伝え合う力を身につける必要があることがわかる。伝え合う力とは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力のことである。「思考力・判断力・表現力等」の「話すこと・聞くこと」においては、聞き手に分かりやすく伝わるように、資料や機器の活用、場に応じた言葉選びなどの表現を工夫することや、考えを比較したり、内容や表現の仕方を評価したりしながら聞くことで、自分の考えを形成することが重要である。

以上から、互いの立場や考えを尊重し、話し方、聞き方の工夫を主体的に考え、的確に表現することが伝え合う力の育成、さらには国語を正確に理解する資質・能力の育成につながると考える。

(2) 学校教育目標から

学校教育目標	高い知性と豊かな心を身につけ、たくましく生きる生徒の育成
めざす生徒像	○よく考え、自ら学ぶ生徒 ○思いやりがあり、正しく判断できる生徒 ○明るく、健康な生徒
校訓（教育理念）	～ 自律・貢献 ～

予測困難な今日をたくましく、よりよく生きるためには高い知性に基づく生きた学力と自他を尊重して共に生きようとする豊かな心が不可欠である。「生きた学力」とは、課された課題について取り組む受け身的な学習で習得した学力ではなく、自ら課題解決に向けて主体的に考えることによって身につけ、活用できる学力である。また、他者と良好に関わるためには自分の思いを伝え、相手の思いを受け取ることが欠かせない。そのためには相手に応じた的確な表現力が求められる。国語科の学習を通して身につけた主体的に考え、的確に表現する力がよりよい人生を歩む生徒の育成につながると考えられる。

いけば当てはまる」と答えた生徒が少ない。国語の学習を大切だと思っている生徒や、国語が将来の役に立つと考える生徒があまり多くない。これは、国語の学習に対しての意義を理解していないことの表れである。学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげようとする生徒があまり多くないという課題が見えてくる。

一方で、質問(28)では、ICT機器の有用性について全国平均・千葉県平均ともに大きく上回る結果となった。本校では、令和3年度からタブレット端末が本格的に導入され、国語科では授業の中で積極的に活用してきた。生徒の取り組む態度が積極的になり、特に国語を苦手とする生徒も進んで授業に取り組むようになってきている。

以上のことから、ICT機器を活用し、国語の学習に対して主体的に取り組もうとする生徒の育成が重要な課題であると考えられる。

②話し合い活動をとおした深い学びの実現

令和3年度全国学力・学習状況調査における「話すこと・聞くこと」に関連する質問の内容と結果は以下の通りである。

【生徒質問用紙集計結果】

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 当てはまる | 2. どちらかといえば当てはまる |
| 3. どちらかといえば当てはまらない | 4. 当てはまらない |

質問番号	質問事項	選択肢				その他	無回答
		1	2	3	4		
(15)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	44	87	58	9	0	0
		22.2	43.9	29.3	4.5	0.0	0.0
		28.6	45.1	21.1	5.0	0.0	0.1
		29.3	45.4	20.5	4.6	0.0	0.1
(36)	友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか	118	69	8	3	0	0
		59.6	34.8	4.0	1.5	0.0	0.0
		66.9	29.2	3.2	0.6	0.0	0.1
		67.1	29.4	2.8	0.6	0.0	0.1
(37)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか	55	95	38	6	0	1
		27.8	48.0	19.2	3.0	0.0	0.5
		32.2	43.8	17.6	4.9	0.0	0.2
		33.9	43.9	16.2	4.5	0.0	0.1
(48)	国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしていますか	42	77	65	13	0	1
		21.2	38.9	32.8	6.6	0.0	0.5
		20.9	37.0	31.7	10.1	0.0	0.2
		22.7	38.6	29.5	9.1	0.0	0.1

1 段目：学校の生徒数

2 段目：学校の生徒数の割合(%)――

3 段目：都道府県(公立)の生徒数の割合(%)

4 段目：全国(公立)の生徒数の割合(%)

質問（48）に対しては、全国平均とほぼ同じ結果となったが、「どちらかといえば当てはまらない」と答えた生徒が少なくなく、二極化していることがわかる。

また、質問（36）の結果から、他者の意見を聞くことはある程度できるということがわかる。一方で質問（37）考えを深めたり広げたりすることに対して、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた人数の割合は千葉県平均と全国平均の結果を大きく下回っており、話し合い活動そのものに苦手意識をもっているためだと考えられる。また、「話すこと・聞くこと」領域における設問ごとの正答率を分析すると、具体的な課題が見えてくる。以下は、その結果である。

設問	出題の趣旨	本校	千葉県	全国
1一	話し合いの話題や方向を捉える。	84.8%	89.8%	89.7%
1二	質問の意図を捉える。	95.5	92.7	92.5
1三	話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える。	61.6	57.2	57.1

【設問1一】は、話し合いの一部を読み、司会者の発言の役割を答える問題である。司会者は「参加者の発言の要点を確認する」旨の発言をしていたが、正答率は千葉県平均、全国平均ともに届かなかった。

このことから、意見交流を通して他者の発言の要点を捉えたり、内容を捉えたりする場面を意図的に設ける必要があると言える。それらの活動をとおして、「話すこと・聞くこと」に対しての苦手意識を払拭するとともに、自分の思いや考えをもって伝え合い、自身の思考を深めていく生徒を育成したいと考える。

3 研究仮説

〈仮説1〉

教師モデルを示し、学習の見通しをもたせるとともに、ICT 機器を効果的に活用することで、生徒の学習意欲を高め、学習の理解を深めることができるだろう。

「話すこと・聞くこと」に対する苦手意識を払拭するためには、学習に対して興味関心をもたせることが大切である。教師モデルを示すことで、学習の到達点がイメージでき、主体的に取り組むようになり、学習の理解が深まると考える。また、生徒の実態からわかるように、ICT 機器を積極的に用いることで、興味関心が高まることが期待できる。

<手立て>

【教師モデルの提示】

○発表資料の提示や実際のスピーチを教師が行い、学習活動の流れと到達点のイメージを持たせる。

【ICT 機器の活用】

- Word や PowerPoint を用いた発表資料の作成。
- Microsoft Teams を用いて、資料の提示及び提出物の回収。
- タブレット端末で発表の様子を動画撮影し、自身の学習の振り返りの実施。

〈仮説2〉

少人数グループを形成し、意見交流の仕方を工夫することで、自分の思いや考えをもって伝え合うことができるとともに、自身の思考を深めることができるだろう。

少人数グループで意見交流を行うことで、発表者は聞き手を意識した発表を行うことができる。また、聞き手側も、少人数だからこそより集中して発表を聞くことができる。さらに、聞き手側に質問者や記録者も設け、発表内容をメモに取らせるなどの工夫を行うことで、意見を聞いてまとめる力が身につくことが期待できる。

<手立て>

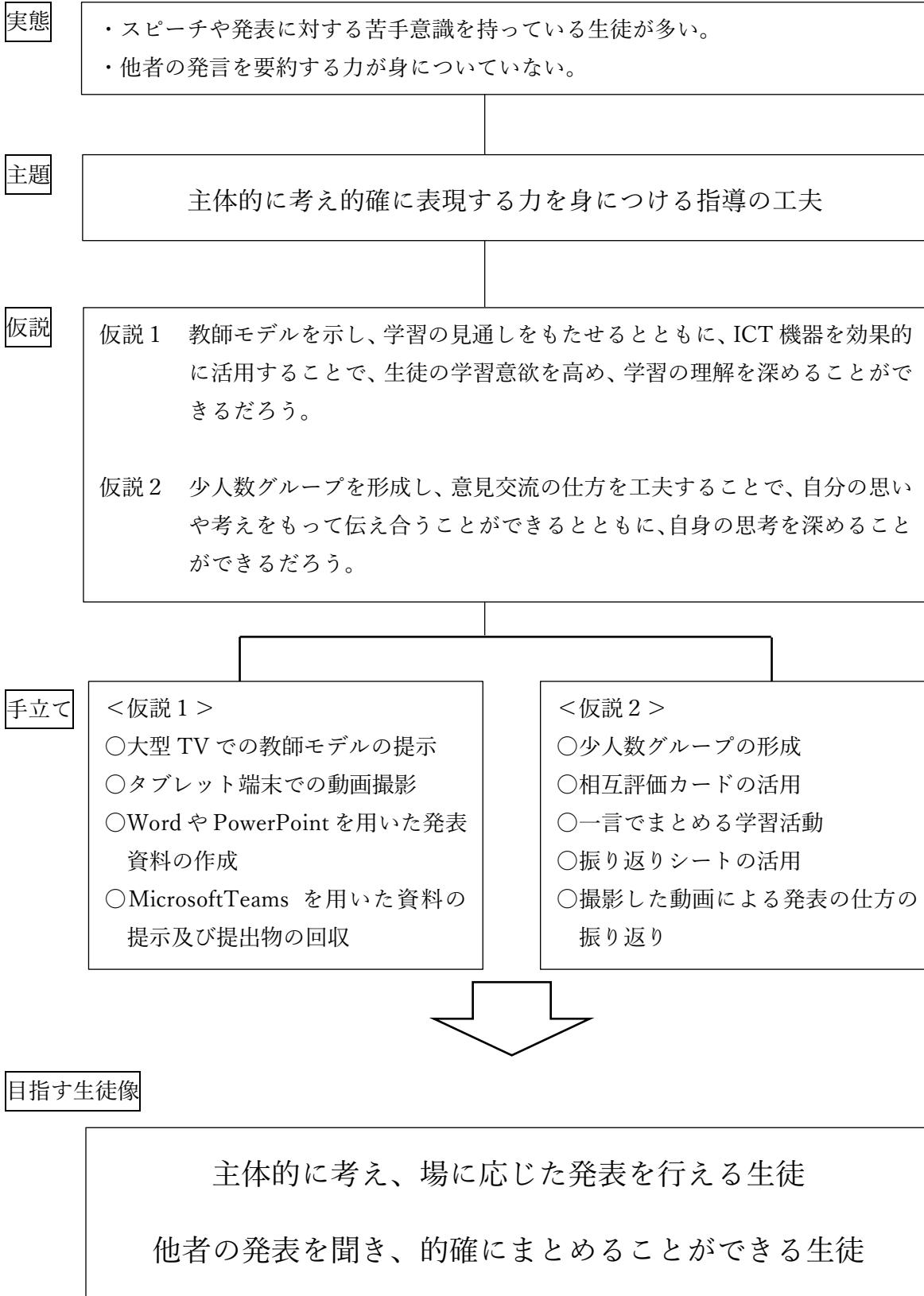
【少人数グループの形成】

- 4人一組の班を一つのグループとして意見交流や話し合い活動の実施。

【意見交流の工夫】

- 評価カードを用いて「話す力」の相互評価。
- 他者から聞いた発表内容を一言でまとめる学習活動。
- 自身の発表を見直す振り返りシート。
- 少人数グループの形成。

4 国語科 研究基本構想図



5 実践例（1）

第1学年6組 国語科学習指導案

指導者 伊藤 咲希

1 単元名 日常生活から話題を決め、伝え合う。

（主な教材：「調べた内容を聞く」 教育出版）

2 単元目標

- ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

〔知識及び技能〕（1）ウ

- ・目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕 A(1)ア
- ・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、想いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

3 本単元における言語活動

「四街道中学校の魅力」を6年生に紹介する。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕 A(1)ア）

4 単元について

（1）単元観

本単元は学習指導要領第1学年の以下の指導事項に位置づけられている。

- ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

〔知識及び技能〕（1）ウ

- ・目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討すること。〔思考力、判断力、表現力等〕 A(1)ア

学習指導要領「〔思考力、判断力、表現力等〕 A 話すこと・聞くことに「話題の設定」「情報の収集」「内容の検討」が位置づけられている。小学校5、6年次段階では、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる授業を行ってきた。9月には「よりよい四街道中になるには」について実体験と関係づけて説明をする授業を行った。

本単元は、上記単元の目標を踏まえ、来年度入学してくる小学6年生に向けて「四街道中学校の魅力」というテーマについてのスピーチを行うことを言語活動とした。本学習材では、「6年生に」（相手意識）、「来年入学する四街道中学校の魅力的なところを伝え、親しみをもってもらうため」（目的意識）のスピーチを行う。学習の導入部でしっかり確認することで、目的意識、相手意識を持ったスピーチをめざしたい。自分も聞き手も興味がわく話題を選び、「自分たちの後輩にスピーチをする」ことにより、人との関わりを通した、生きた学習となるだろう。本教材では、「スピーチ原稿」を作成して、スピーチを行う。聞き手の反応を見ながら話せるようになるまで練習

させ、「原稿を『読む』のではなく、自分の言葉で『話す』スピーチ」をめざしたい。練習の間にスピーチ原稿を修正し、言葉がうまく出てこない所や話すべき内容が抜けてしまった所などにメモを書き加え、自分が使いやすい原稿となるよう工夫させ、検討している評価材料にする。話す際には、聞き手の様子を見て、話が伝わっていないと感じられたなら、繰り返し述べたり分かりやすく言い換えたりすればいいことも学ばせたい。発表時にも、良かった点を中心に感想を述べ合うことによって、互いの考えをより深めさせ、「伝え合う力」を養うことができるので、単元の目標「〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ア」を達成するのに適した言語活動だと言える。

(2) 生徒の実態

本学級は男子 17 名、女子 16 名、計 33 名からなる学級である。

本学級の実態調査を行ったところ、次のような結果が出た。以下は、アンケートの内容とその回答結果である。

○スピーチをする時に気を付けていることは何ですか（上位3つに○）

- A 声の大きさ・・・・・・・・・・24名（72.7%）
- B 話す速さ・・・・・・・・・・23名（69.6%）
- C 大事な部分を強調すること・・・10名（30.3%）
- D 順序良く話すこと・・・・・・・・・・9名（27.2%）
- E 分かりやすい資料を作ること・・・9名（27.2%）
- F 相手の反応を見ること・・・・・・・・14名（42.4%）
- G その他・・・・・・・・・・2名（6.0%）

（笑顔→1名・相手の目を見る→1名）

アンケートの結果から「A 声の大きさ」や「B 話す速さ」など、スピーチの基本を理解している生徒は多数いることが分かる。また、9月に行った「よりよい四街道中になるには」というテーマのスピーチを行った際、「相手の反応を想定して、話す内容を考える」という指導が「F 相手の反応を見ること」に気を付けようという意識につながっていると考えられる。

一方で、「D 順序良く話すこと」は9名と少なく、スピーチの構成を意識していない生徒が多いことが分かる。「E 分かりやすい資料を作ること」に関しては、国語の授業の中で資料を作成してのスピーチを経験していないことが要因であろう。資料作成のために必要な事柄は、実体験やアンケートを自ら考えることで、集めた材料を整理する力を身に着けることができると考える。今後の学校生活や社会に出た際にも、資料を使ってのスピーチは、必要なものとなるので、今回の学習をよい機会と考え、スピーチに合った分かりやすい資料をつくることも、意識させていく。

(3) 指導観

単元観と生徒の実態を踏まえ、日常生活から話題を集め、集めた材料を整理し、伝え合う力を身につけさせる指導を行う。

また、本校の研究主題に基づき、国語科では「主体的に考え的確に表現する力を身につけ、日常生活に生かす指導の工夫」を努力点としている。また、仮説に対して本単元では以下のような

工夫改善を行う。

仮説①「生徒が意欲的に学びに向かえるような指導方法の工夫」として、スピーチや資料作成を行う際は、モデルを示して、学習の見通しをもたせたうえで活動に臨む。また、スピーチを行う際は、タブレットを用いて資料を作成させ、聞き手が興味をもてるような発表の仕方の指導を行う。

仮説②「互いの意見を交流し、多面的・多角的に考えられるような指導の工夫」においては、少人数グループでの交流を行う。少人数グループで行うことにより、より相手意識をもつことができるようになり、伝え合う力を高めることができる。また、聞き手側には評価カードを記入させることで、発表を能動的に聞くよう働きかける。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事象や行為、心情を表す語句の量を増すととも、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ((1)ウ)	①「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 (A(1)ア)	①積極的に自分の考えをまとめ、学習の見通しをもって報告しようとしている。

6 指導と評価の計画（全7時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一 次	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・教師のモデルを示して、スピーチの様子をイメージさせる。 ・「四街道中学校の魅力的なところ」について根拠となる材料を集め、スピーチ原稿を作成する。 ・タブレットを活用し、資料を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実体験やアンケート実施をもとに考えるよう促す。 ・相手に伝わりやすいスピーチ内容と資料を作成するよう指導する。 ・原稿の添削も評価の対象になることを伝え、直したことを跡に残すよう指導する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[知識・技能①] [思考・判断・表現①] <u>スピーチ原稿</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートとタブレットを活用し、参考となる材料をまとめている。 </div>
第二 次	3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチを分かりやすく組み立て、スピーチ資料を完成させる。 ・スピーチの練習をし、他者に伝わりやすい内容かを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者が聞いたときに伝わりづらい表現がないかに着目させる。 ・説明の際に相手に伝わりやすい資料であるかを最終確認させる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[思考・判断・表現①] <u>スピーチメモ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の反応を踏まえてスピーチできるように、スピーチメモに状況に応じて活用できる情報を追記したり、言い換えられる言葉について考えたりしている。 </div>
第三 次	6 本時 7	<ul style="list-style-type: none"> ・4人1組で、スピーチを行う。 ・スピーチの発表を、相互評価するとともに、学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、相手に分かりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いに注意するよう指導する。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[主体的に学習に取り組む態度①] [思考・判断・表現①] <u>ワークシート②</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて反復などの表現を用いて重要な点を強調し、スピーチしている。 </div>

7 本時の指導

(1) 評価規準

- ・目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。
[思考・判断・表現]

- ・伝えたいことが相手によく分かるように、工夫して報告しようとしている。

[主体的に学習に取り組む態度]

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	<p>1 本時の学習と学習目標を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習課題 「四街道中学校の魅力」について6年生に紹介をしよう。</p> </div> <p>ワークシートに一番伝えたいことをまとめて記入する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・分かりやすいスピーチをするためには、構成が大切であることを確認する。【見いだす】</p> </div>		
5	<p>2 報告の最終確認をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>・最終練習を行い、どのように話したら分かりやすく伝わるのかを考える。</p> <p style="text-align: center;">【自分で取り組む】</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・スピーチで伝えたい自分の意見を一言でまとめて記入するよう指導する。 ・発表のポイントを示し、練習に取り入れるよう指導する。 	スピーチメモ
10	<p>3 報告会の流れについて説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>報告会の流れ</p> <p>①スピーチは1分半～2分。</p> <p>②話す時は資料を活用し、視覚的にわかりやすい発表を行う。</p> <p>③聞く側（2～3名）は発表を聴きながら、発表者への各項目の評価を行い、アドバイスをする。</p> <p>④役割を変え、①～③を繰り返す。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・スムーズにスピーチを進められるよう、資料を使って説明する。 ・発表の際に気を付けること、評価者として気を付けることの指導を十分に行う。 	資料 (パワーポイント)
20	<p>4 報告会を行う。</p> <p>流れに沿って、一人2分程度のスピーチをし、評価記入の時間を2分間取る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>班の中でスピーチの内容や資料についての意見を交換する。</p> <p style="text-align: center;">【広げ深める】</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>○観察 [思考・判断・表現]</p> <p>《「努力を要する」と判断した生徒への手立て》</p> <p>・「はじめ・なか・おわり」のスピーチの順序を意識させる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・報告会では「聞く側」の指導も十分に行う。 	

10	<p>【紹介例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形の校舎について ・ 部活動について ・ テスト対策について ・ 教科担任制について ・ 行事について ・ 図書室について <p>5 本時を振り返る</p> <p>自他のスピーチを評価し、振り返りをする。</p> <p style="text-align: center;">【まとめあげる】</p>	<p>○観察 [主体的に学習に取り組む態度]</p> <p>《「努力を要する」と判断した生徒への手立て》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要に応じて、自分の一番伝えたい内容を反復して説明するように伝える。 <p>・ 自他のスピーチについて評価をし、単元の学習を振り返らせる。</p> <p>○ワークシート② [思考・判断・表現]</p> <p>《「努力を要する」と判断した生徒への手立て》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「一言でまとめると」を見て、話したい内容が相手に伝わったのかを判断させる。 	ワークシート②
----	--	---	---------

8 板書計画

<p style="text-align: center;">スピーチの流れ</p> <p>① スピーチは一分半〜二分。</p> <p>② 話す時は資料を活用し、視覚的にわかりやすい発表を行う。</p> <p>③ 聞く側（2〜3名）は発表を聴きながら、発表者への各項目の評価を行い、アドバイスをする。</p> <p>④ 学習のまとめをする。</p>	<p style="text-align: center;">調べた内容を聞く</p> <p>学習課題 「四街道中学校の魅力」 を6年生に紹介しよう。</p>
--	---

9 生徒の変容

(1) 研究実践前の生徒Nの様子

9月に「四街道中学校をより良くするために自分達ができることはなんだろう」という題材でスピーチを行った。自分たちの実体験から学校の現状の課題を見つけ、改善方法を考えてスピーチを行うというものであった。教師モデルとしては「四街道市をよりよくするためには」というテーマで実際に生徒と同じ時間数でスピーチを実践して見せた。

以下、生徒Nの学習プリントである。

スピーチ評価票

2組 15番 氏名 XXXXXXXXXX

担当: XXXXXXXXXX

NO	項目	評価
1	・原稿の丸読みではなく、自分の言葉で話しているか	1-2- <u>3</u> -4-5
2	・構成がしっかりとしているか(はじめ・中・終わり)	1-2-3- <u>4</u> -5
3	・相手の反応を見て、必要であれば捕捉をしているか	1-2- <u>3</u> -4-5
4	・一番伝えたいことが一言でよくまとまっているか	1-2- <u>3</u> -4-5

総合評価 A: とてもよい B: よい C: 要改善

<友達のスピーチを一言でまとめると…>
 四中をよくするためには、あと先を考えて行動をした方がいい。

○友達からの評価票を貼ろう。

周りの行動につながる

○自分の伝えたいことを一言でまとめて書こう。

本授業における生徒Nが伝えたいことを一言でまとめたもの。
 「周りの行動につながる」との記述。

生徒Nの発表を聞き手が一言でまとめたもの。
 「四中をよくするためには、あと先を考えて行動した方がよい」
 「先の事を考えて行動した方がよい」
 「しゃべることをなくす」

まず、生徒N自身が、自分のスピーチを一言でまとめられていない。そのため、他の生徒たちにも生徒Nが伝えたい内容が伝わっていないことが分かる。また、スピーチの振り返りでも、生徒Nはそのことに課題を感じている様子だった。

聞き手が記入した評価票を見て、自分の発表を振り返った生徒Nの文章。

「スピーチではあまりうまくいかず、特に補足があまりできなくてくやしかった。友達のスピーチをまとめるの一言があまりいっちなかったから、もっと改善しとくべきだった」との記述。

○評価表から自分のスピーチを振り返ろう。

スピーチでは、あまりうまくいかず、特に補足があまりできなくてくやしかった。
 友達のスピーチをまとめることでの一言があまりいっちなかったから、もっと改善しとくべきだった。

(2) 研究実践の生徒Sの様子

12月には「四街道中学校の魅力を6年生に紹介する」という題材で再度スピーチを行った。教師モデルとして「四街道市の魅力を紹介する」というテーマでプレゼンテーション資料を作り、生徒の前で発表を行った。

以下、生徒Nの原稿である。

12月のスピーチではワークシートを「私が考える四中の魅力は・・・。なぜなら・・・。」と定型文にしたことで、生徒Nは自分が伝えたい内容を一言でまとめることができるようになった。(仮説1)

私が考える四中の魅力はいい先生がいっぱいいる。はいいいる。なぜなら安心して学校に来れるようにしたいから。

本授業における生徒Nが伝えたいことを一言でまとめたもの。
「私が考える四中の魅力はいい先生がいっぱいいる。なぜなら安心して学校に来れるようにしたいから。」との記述。

おわり	なか	はじめ
<p>四道中学校にはたくさんいい先生がいます。先生とたくさん話していいところ関係もよくなると思います。みなさんも先生とたくさん話していいところ関係もよくなると思います。</p>	<p>おわりはいい先生がいっぱいいる。はいいいる。なぜなら安心して学校に来れるようにしたいから。</p>	<p>みなさんは、小学校の時にどんな先生がいたのかわかりました。小学校の時に、どんな先生がいたのかわかりました。小学校の時に、どんな先生がいたのかわかりました。</p>

①スピーチ原稿を作ろう
②まずは、思いをついて書いてみよう。③相手と伝わりやすいよう、添削した原稿を提出しよう。

- ・「なか」を受けて伝えたいこと。
- ・全体をとおして最後に強調したいこと。
- ・中学校入学が楽しみになるメッセージ。

- ・「事実(実体験)」と「意見」を分けて。
- ・「聞き手」に「なぜ」が分かるように。
- ・一文が長くならないように。
- ・資料を出すタイミングは?

- ・スピーチの成功はここで決まる!?
- ・聞き手の心をつかむ工夫を。(問いかけ?クイズ?自分が小6の時の事?)

教師モデルとして、「はじめ」にクイズを入れたところ、生徒Nもそれをスピーチに取り入れた。(仮説1)

さらに、前回のスピーチで、伝えたいことが伝わらなかったという反省をした生徒Nは、12月に行ったスピーチでは伝えたい「先生について」の内容を繰り返し記述したり、「おわり」の部分に一番伝えたいことを記述したりする工夫をした。

以下、スピーチを聞いた生徒の評価と、生徒 N の自己評価である。

生徒 N は、「伝えたいことが伝わったか」の自己評価に「A」をつけた。

- 評価表から自分のスピーチを振り返ろう。
 - ① 聞き手を意識して話せた
 - ② 構成を工夫できた（原稿の添削）
 - ③ 伝わりやすい資料が作れた
 - ④ 伝えたいことが伝わった
- A A A A
B B B B
C C C C

スピーチ評価表

2年 20番 氏名

担当: 先生

NO	項目	評価
1	・聞き手を意識して発表しているか	1-2-3-4-5
2	・構成がしっかりしているか（はじめ・中・終わり）	1-2-3-4-5
3	・資料は、視覚的にわかりやすいものになっているか	1-2-3-4-5
4	・一言伝えたいことが一言でよくまとまっているか	1-2-3-4-5

総合評価 A: とてもよい B: よい C: 要改善
<アドバイス>
ちょっと早口だから、ゆっくりしゃべろう
Aいいと思ふ。

<友達へのスピーチ（四中の魅力）を一言でまとめると>
友達に伝える四中の魅力は
いい先生がいっぱいいる。
なぜなら
先生がやさしく教えてくれるから。
みんなのこと

生徒 N の発表を聞き手が一言でまとめたもの。
「四中の魅力はいい先生がいっぱいいること。なぜなら先生が優しくいろんなことを教えてくれるから。」
「四中の魅力は優しくていい先生がいっぱいいること。なぜなら、安心して学校に来られるから。」

生徒 N の課題であった、「伝えたいことを伝える」が達成されていることが分かる。また、生徒 N のスピーチに対して感想を書かせたところ、聞き手の生徒から「最後にまとめがあったので分かりやすかった」という記述があった。本人も、「伝えたいことが伝わった」という項目に自己評価 A をつけていた。

(3) 研究実践後の生徒 N の様子

スピーチは内容が一番大事だと思ふ。たけど聞き手を意識して話ることが大事だと感じた。聞き手を意識するには、周りを見る。重要なところをくりがえす。聞こえるぐらいの声をたすことを学んだ。スピーチは面接に役立つと思ふから今のうちに頑張る

自分が伝えたいことがうまく伝わらなかった生徒 N は、聞き手が分かりやすいスピーチにすることの大切さを学ぶことができた。（仮説 2）

(4) 研究実践前の生徒 S の様子

「スピーチをする時に気を付けていることは何ですか」というアンケート（上位 3 つに ○）には「声す大きさ」・「話す速さ」・「大事な部分を強調すること」と答えていた。いずれの回答もスピーチをする上で自分に重きをおいたものであり、相手意識をもってスピーチを構成しようとすることは、重要視していないことが分かる。

以下、生徒 S が考えた原稿である。

私がこのクラスできていないと思うことは、「忘れ物が多い」ということだと思っています。もちろん、忘れ物をあまりしない、したことがない、という人もいます。ですが、毎日のように授業前に「自分は〇〇を忘れた」という人がいます。では、どうすれば忘れ物をしにくくなるのでしょうか。

まず私は、「各教科ごと」に持ってくるべきものを把握することが大切だと思います。国語ならこれ、数学ならこれと、持ってくるものが違いますよね。すべて覚えきれていない、という人もいます。ですが、これを「当たり前だ」と思い、行動している人がいます。

それは、背面黒板を見ればわかります。持ち物のところに、「いつも通り」と書いてありますよね。これは、予定を伝える連絡係がすべて書くのが面倒くさい、ということもあると思います。私も社会の連絡係なので、よくわかります。ですがその心の裏には、「この教科ならこれを持ってくるって、みんな分かっているでしょ」という気持ちがあると思います。

それなのに、忘れ物をしてしまう人がいるから、毎日毎日学芸委員の人が忘れ物を聞いて、先生に「なんで忘れるんだ」と指摘されてしまうのです。

忘れ物をしないためには「各教科ごと」に持ってくるものを把握する。そのために、友達などに持ってくるものを聞いたり、毎日の歩みに「記入したり、自分なりの努力をしてほしい」と思います。自分のミスで他人に迷惑が掛かっている、ということを見直し

この取り組みが進み、忘れ物ゼロの授業が続けば、授業評価も上がります。そしてこのことが他クラスに広まると、対抗心からどんどん忘れ物が減っていくと思います。そしてそれが学年、学校へ広がれば四街道中学校が「全校生徒忘れ物ゼロ」となることも、そう遠い話ではないかもしれません。

忘れ物を全然しない、という人は、よく忘れ物をしてしまう友達に「こうすれば忘れられないよね」と、解決策を提示するのもいいかもしれません。そして、いつも忘れ物をしてしまう人はある意味癖になってしまっているのかもしれないですね。けれども、忘れ物をしてしまうこととによって周りのクラスメイトや友人に迷惑をかけているはずですよ。「癖を直す」ということは難しいかもしれませんが、ぜひとも努力をしてほしいです。

みんなで協力をして、「忘れ物ゼロ」を目指しましょう。

これでスピーチを終わります。

タブレットで構成メモを作り、それをもとに原稿を書き上げた。黒く塗っているのは、生徒 S が添削した跡である。

生徒 S の事前に考えた「自分の伝えたいことを一言でまとめて書こう」とスピーチに対する聞き手生徒の評価である。

本授業における生徒 S が伝えたいことを一言でまとめたもの。「四中をよりよくするためには、全員が忘れ物をしないように、教科ごとに持ってくるものをあくすることが必要だ。」という記述。

生徒 S の発表を聞き手が一言でまとめたもの。
 「四中をより良くするには、忘れ物をなくすことが必要」
 「四中をよりよくするには忘れ物をなくす」
 「忘れ物をしないためにあゆみなどで工夫する」

スピーチ評価表

NO	項目	評価
1	・準備の丸読みではなく、自分の言葉で話しているか	1-2-3-4-5
2	・構成がしっかりしているか(はじめ・中・終わり)	1-2-3-4-5
3	・相手の反応を見て、必要であれば補足をしているか	1-2-3-4-5
4	・一言伝えたいことが一言でよくまとまっているか	1-2-3-4-5

総合評価 (A:とてもよい B:よい C:要改善)

<友達のスピーチを一言でまとめたこと>

忘れ物をなくすこと、忘れ物をなくすこと
 必要

〇友達からの評価表を貼ろう。

四中をよりよくするためには全員が忘れ物をしないように各教科ごとに持ってくるものをあくすることが必要だ。

生徒 S が伝えたい内容はほとんどの生徒がよく聞き取れていた。一方で「相手の反応を見て、必要であれば捕捉をしているか」という項目は、本人が課題を感じており、聞き手の生徒からの評価は3. 6と他の項目よりも低い評価となっていた。

聞き手が記入した評価票を見て、自分の発表を振り返った生徒Sの文章。

「3番（相手の反応を見て、必要であれば補足をしているか）があまりできていないとっていて、みんなの評価も他と比べると少し低めだった。」との記述。

3番があまりできていないとっていて、みんなの評価も他と比べると少し低めだった。3番の評価が全体的に高かったから、これからは伝えた、スピーチを一言でまとめることは、忘れ物となくすというところは伝えたが、各教科ごとと持ってくる物もあくするということもあまり伝えていないので、改善が必要だと思った。

(5) 研究実践の生徒Sの様子

12月に実践した「四街道中学校の魅力を6年生に紹介する」という題材で生徒Sが書いた原稿である。

おわり	なか	はじめ
<p>中学生になるという事で、たくさん不安なところがあると思います。ですが、こんなに魅力的な校舎の下友達と遊んだり生活したりできると思えば、全然かまわなくていいと思います。勉強や部活など大変なこともありますが、楽しさや中学校生活になると思えば、ぜひ心待ちにしてほしいと思います。これも関係ないかもしれませんが、ありがとうございます。</p>	<p>そんな広々とした校舎の中で私が好きな場所は二つあります。一つ目は空中廊下です。昇降口から入るとま先に見えるこの廊下は二階にあり、主に音楽室や美術室に行く時に使います。この場所はとても開放感があり、友達に会える場所です。授業の際には廊下を二階は二階に案内してくれます。形がかわりますが、私はあまり利用したことがありませんが、友達と遊びたいなかなかなと思います。また、この場所はたくさん日光が当たるので、定期テスト後に、いかに座、アフレックスするのにもいいかもしれません。外の景色が見ることができ、一度立ち寄り、下りて下さい。</p>	<p>みなさんは四中の魅力はなんだと思いますか？部活行事給食などたくさんあると思います。様々なものの中で、私が「四街道中学校の魅力」と思っているのは、四街道中学校の校舎です。四街道中学校の校舎は、上空から見ると三角形になっています。この校舎の中で、全校生徒約六百五十人と先生方が毎日生活しています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 「なか」を受けて伝えたいこと。 全体をとおして最後に強調したいこと。 中学校入学が楽しみになるメッセージ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「事実（実体験）」と「意見」を分けて。 「聞き手」に「なぜ」が分かるように。 一文が長くならないように。 資料を出すタイミングは？ 	<ul style="list-style-type: none"> スピーチの成功はここで決まる！？ 聞き手の心をつかむ工夫を。 「問いかけ？タイズ？自分がやる時の事？」

スピーチ原稿作成の
①原稿を準備している様子

随所に聞き手に向けての投げかけがあり、聞き手を意識した原稿づくりに変化している。

生徒Sの事前に考えた「自分の伝えたいことを一言でまとめて書こう」とスピーチに対する聞き手生徒の評価である。

本授業における生徒Sが伝えたいことを一言でまとめたもの。「私が考える四中の魅力は広々とした校舎です。なぜなら開放感のある廊下や休けいスペースがあり、快てきに過ごせる校舎だと思ったから。」との記述。

「聞き手を意識して発表しているか」という項目は聞き手全員が5をつけていた。

スピーチ評価表	
項目	評価
1 聞き手を意識して発表しているか	1-2-3-4-5
2 構成がしっかりしているか(はじめ・中・終わり)	1-2-3-4-5
3 資料は、視覚的にわかりやすいものになっているか	1-2-3-4-5
4 一言伝えたいことが一言でよくまとまっているか	1-2-3-4-5

総合評価 A: とてもよい B: よい C: 要改善
 <アドバイス>
 がいいスピーチが5人ほどあった。
 聞き手が聞きやすかった。
 <友達へのスピーチ(四中の魅力)を一言でまとめること>
 友達も考える四中の魅力は
 広々とした校舎だ。
 なぜなら
 開放感があるから。休けいスペースがあるから。
 <アドバイス>
 (聞き手)
 <友達へのスピーチ(四中の魅力)を一言でまとめること>
 友達も考える四中の魅力は
 広々とした校舎だ。
 なぜなら
 開放感があるから。休けいスペースがあるから。

私が考える四中の魅力は広々とした校舎です。なぜなら開放感のある廊下や休けいスペースがあり、快てきに過ごせる校舎です。

(6) 研究実践後の生徒Sの様子

以下、3月に1年間の学習を振り返った際の生徒Sの記述である。

中学生になってから、「聞き手のこと意識して話す」ということを覚えた。声の大きさやスピードの他に、相手のことを見て自分が変化しなければ、良いスピーチにはならない。発表をしている時も聞いている時も思ったので、これからも意識して話したいと思う。まだ気づけていないポイントや工夫もたくさんあると思うので、スピーチを通して色々と学びたい。これからの時代はコミュニケーション力やプレゼン力が求められることになるので、学生生活を肩負って勉強していきたい。

学習前は生徒Sが考えるスピーチにおいて気を付ける項目は自分自身に関するものが全てだったが、少人数グループでの活動を通して聞き手を意識した発表へと変化した。(仮説2)

以下、他の生徒のまとめの記述である。

スピーチは練習が大事だと感じられた。スピーチは簡単そうで意外と難しい人だなと思った。友達の良^い所も自分のスピーチで取り入れることができた。ハキハキとスラスラと読んだ方が良^い事に気付いた。次にスピーチをする時は早口にならな^いように気を付けたい。2年生ではよりよい完璧なスピーチができるように頑張りたい。相手に伝える気持ちでスピーチができるように心がけた。メモや原稿では相手が分かりやすいように構成を考えて書く。相手の目を見て話せるようにしたい。

グループで評価が良かった生徒を全体で発表させたことで、良い所を真似しようとする姿勢が生まれた。

3回やったスピーチでは、相手をいかに引きつけて話を聞き取らせたかを手本とした。聞くための立場になって、人に話をさせた方がおもしろいかな、など、考えながらメモを作成できるようにした。また、スピーチが上手な人の良^いところをメモして見たりできた。最初の方は、スピーチが楽しく苦手だったか回数を重ねたことで、少し苦手意識が薄くなった。スピーチは高校入試や将来の面接にも役立っていると思うので、さらにスピーチが上手になるように頑張りたい。

最初に教師モデルを示したことで、ゴールまでの見通しがもてた。教師モデルに習って、クイズを入れたり、アンケート結果をいれたり、データ化したりする生徒も多くいた。また、回を重ねるごとにスピーチへの苦手意識が薄れ、「話すこと・聞くこと」の力の必要性を感じている生徒も多数いた。(仮説1)

1 単元名 よりよい結論を導く討論をする

（主な教材：「よりよい結論を導く討論をする」 教育出版）

2 単元目標

- ・ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。
〔知識及び技能〕(1)エ
- ・ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)オ
- ・ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

3 本単元における言語活動

「病院、警察へのAIの導入について、どちらを優先すべきか」について、異なる立場から推論した意見をもとに討論をする。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)オ）

4 単元について

(1) 単元観

本単元は学習指導要領第2学年の以下の指導事項に位置づけられている。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
〔知識及び技能〕(1)エ・ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめること。
〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)オ |
|--|

学習指導要領「〔思考力、判断力、表現力等〕A 話すこと・聞くことに「話題の設定」「情報の収集」「内容の検討」が位置づけられている。小学校5、6年次段階では、日常生活から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する授業を行ってきた。中学校1年次では、環境問題について調べたことを文章にし、情報の整理と根拠に基づく自分の考えをまとめ発表する授業を行った。

本単元は、上記単元の目標を踏まえ、「病院、交番へのAIの導入について、どちらを優先すべきか」というテーマに対して、自分の考えや主張を形成し、話題や展開を捉えながら話し合い、結論を導くことを言語活動として設定した。AIの導入については科学技術の進歩により様々な分野で検討が進められ、2030年には49%の職業がAIやロボットで代替される可能性があるともいわれている。ただAIの導入については、メリットだけでなくデメリットもあるため、多面的・多角的な立場から考えさせ、討論の際には、相手の立場も考え、お互いが推論した意見の共通点や相違点を見つ

け、新たな提案などを踏まえて話し合いを充実させたい。また、自分の考えや主張を形成する上で根拠となる情報をインターネット等を用いて調べることで、より正確で多くの情報を集めて整理し関連づけながら考えを構築していくという過程は、単元目標「〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)オ」を達成するのに適した言語活動だと言える。

(2) 生徒の実態

本学級は男子 19 名、女子 19 名、計 38 名からなる学級である。

本学級の実態調査を行ったところ、次のような結果が出た。以下は、アンケートの内容とその回答結果である。

授業アンケート（10月14日、34名で実施）

あなたは、話している相手と意見が違った時、どうしますか？ 一つ選んでください。

- 1、自分の意見が正しいので、相手の意見は受け入れない。 0名（0%）
- 2、相手を傷つけないので自分の主張はあきらめ相手の意見を尊重する。7名（21%）
- 3、相手の意見と自分の意見の共通点を見つける。 9名（26%）
- 4、自分の意見に納得してもらうため、根拠や証拠を説明する。 9名（26%）
- 5、相手の意見の疑問点を追求する。 7名（21%）
- 6、その他 2名（6%）

その他の意見として「相手の意見を尊重してから、こういう意見もあるのではないかと自分の意見を言う」という記述があった。

話している相手と意見が違った時にどうするかという質問に対して、「相手の意見と自分の意見の共通点を見つける」と「自分の意見に納得してもらうため、根拠や証拠を説明する」が同数の9名で一番多かった。「自分の意見に納得してもらうため、根拠や証拠を説明する」の回答が多くを占めた理由としては、中学1年次で学習した「根拠を明確にして意見文を書く」の内容が身につけていると思われる。「相手の意見と自分の意見の共通点を見つける」という回答に加えその他の回答の、「相手の意見を尊重してから、自分の意見を言う」と答えた生徒はどちらか一方の意見を通すのではなく、話し合いの中で結論を出そうとしており、よりよい結論を導く討論が円滑に進むことが予想される。その一方で、「相手を傷つけないので、自分の主張はあきらめ相手の意見を尊重する」と答えた生徒も少なくなく、話し合いに臨まずに結論を出してしまう傾向もみられる。そのため、意見が違った時には相手の意見も聞きながら自分の主張をするという、話し合い活動に必要な資質・能力を身につけさせていく。

(3) 指導観

単元観と生徒の実態を踏まえ、よりよい結論を導く討論をするために、自分の主張をどのようにまとめるとより伝わりやすいのかを意識させて討論に臨ませたい。

また、本校の研究主題に基づき、国語科では「主体的に考え的確に表現する力を身につけ、日常生活に生かす指導の工夫」を努力点としている。また、仮説に対して本単元では以下のような

工夫改善を行う。

仮説①「生徒が意欲的に学びに向かえるような指導方法の工夫」として、討論を行う際は聞き手が興味をもてるような情報の提示と話し方についての指導を行う。また、主張の根拠を明確にするためインターネット等を用いて調べ学習をさせ、情報化・グローバル化が進む現代社会の実態についてまとめ、聞き手が納得するように論じる方法の指導を行う。

仮説②「互いの意見を交流し、多面的・多角的に考えられるような指導の工夫」においては、少人数グループでの交流を行う。少人数グループで行うことにより、より相手意識をもつことができるようになり、聞き手の反応に留意しながら発表の工夫を行うことができる。また、聞き手側は発表者の意見に対して納得した部分の主張をまとめ、自分の意見と対比させながら結論を導き出すことができる。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①抽象的な概念を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)	①「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ)	①積極的に情報と情報との関係について理解し、学習の見通しをもって討論しようとしている。

6 指導と評価の計画（全4時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法
第一	1	<ul style="list-style-type: none"> ・「推論する」ことについての説明と具体例を示す。 ・話し合いの進め方を理解し、自分の立場を決める。 ・班ごとにテーマを決める。病院を優先、警察を優先のどちらか1つを選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを使って、討論を行うための準備を整えさせる。 ・「学びナビ」を読んで、「推論」の意味を具体例を挙げながら説明する。 ・4人1組のグループをつくり、各グループの中で1人ずつリーダーを決め、話し合いの司会進行をするよう指示をする。 	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>[知識・技能①] ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・討論するための自分の考えを整理しまとめた記述。 </div>

<p>第 二 次</p>	<p>2 3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師モデルを示し、討論の流れを確認させる。 ・4人1組のグループで異なる立場を設定し、役割を分担する。 ・自分の意見をノートにまとめ、主張の根拠となる材料を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師モデル動画を視聴させ、討論の良い例、悪い例について紹介する。 ・病院優先、警察優先それぞれの立場から、聞き手を納得させられるような情報を集めてまとめさせる。 ・まとめたノートは自分で読み返してもわかりやすいものになっているか確認させる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[主体的に学習に取り組む態度①] <u>情報収集とまとめの資料</u> ・聞き手を納得させるための根拠となる情報の収集とまとめる様子。</p> </div>
<p>第 三 次</p>	<p>4 本 時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4人グループで討論を行う。 ・行われた話し合いについて、グループごとに振り返りを行なう。 ・話し合いから導いた結論について、ワークシートにまとめる。 ・納得できた相手の主張と疑問点、質問をワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換は、それぞれの発表が終わってから改めて時間を取るように説明をする。 ・話し方だけでなく、聞き方の指導も行い、討論が円滑に進むよう意識させる。 ・ワークシートに、結論に至った経緯がわかるように記入させる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[思考・判断・表現①] <u>ワークシート</u> ・納得できた相手の主張と疑問点の記述。</p> </div>

7 本時の指導

(1) 評価規準

- ・互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。

[思考・判断・表現]

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	<p>1 本時の学習と学習目標を知る。</p> <p>学習課題 互いの立場や考えを尊重しながら話し合おう。</p> <p>ワークシートに一番伝えたいことをまとめて記入する。</p> <p>・聞き手に自分の立場を伝えた上で、主張の根拠となる一番重要な情報をまとめる。【見いだす】</p>		
7	<p>2 討論の流れを説明する。</p> <p>討論の流れ</p> <p>①主張の発表は1分半程度。</p> <p>②まず最初に自分の立場を明らかにさせてから根拠を踏まえ主張する。</p> <p>③聞き手(2~3名)はワークシートに納得できたことを短くまとめ記述する。</p> <p>④役割を変えて、①~③を繰り返す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「病院、警察へのAIの導入について、どちらを優先すべきか」について、自分の立場がわかるように明記させ、一番伝えたいことをまとめるよう指導する。 ・討論はあくまでも言い合いではなく、相手の意見も取り入れながら、共通点や相違点を見つけ出す活動であることを説明する。 ・ワークシートに一番伝えたいことがまとめられているかを確認し、討論の準備をさせる。 	ワークシート
5	<p>3 討論での主張の最終確認をする。</p> <p>・相手に伝わりやすい発表を行うための最終確認を行う。</p> <p>【自分で取り組む】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までにまとめたノートを確認し、自分の主張が聞き手に伝わるような話し方の確認をさせる。 	
23	<p>4 討論を行い、結論を導く。</p> <p>一人1分半程度の主張をする。全員の主張が終わったところで15分程度話し合い、班の結論を出す。</p>	<p>○観察 [思考・判断・表現]</p> <p>《「努力を要する」と判断した生徒への手立て》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が一番主張したいことを短くまとめるとよいと助言する。 	ノート

10	<p>討論に基づき、班ごとに意見をまとめる。その結論に至った理由も説明できるようにする。 【広げ深める】</p> <p>5 本時を振り返る。</p> <p>班員のワークシートを参考に、自分の発表が伝わりやすいものだったのかを振り返る。 【まとめあげる】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手にはメモを取らせて、相手の主張の納得できたところと疑問に思ったことを確認するよう指導する。 ・班員全員が納得した結論になるように、一番共感した情報を明確にするよう指導する。 ・友達の意見を踏まえて、改めて自分の意見をまとめられているかの確認をさせることで、友達の発表をしっかり聞いていたかを振り返らせる。 <p>○ワークシート [思考・判断・表現] 《「努力を要する」と判断した生徒への手立て》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が主張したかったことと聞き手に伝わったことを比較させ、伝わらなかった理由を考えさせる。 	ワークシート
----	--	--	--------

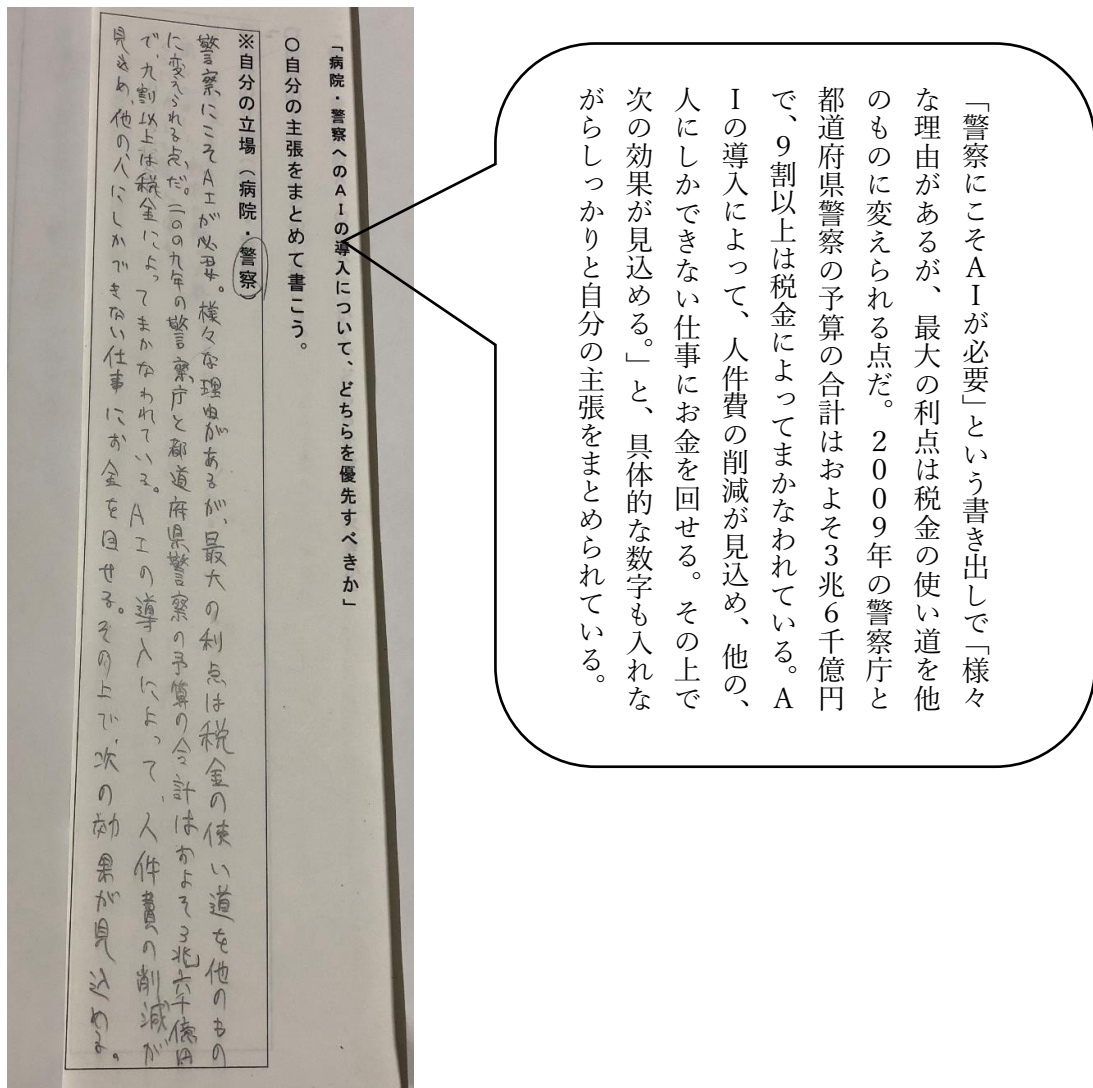
8 板書計画

<p>「討論」を行う時に気をつけること。 (話す人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の立場をはっきり伝える。 ○聞いている人がわかりやすい言葉を使う。 <p>(聞く人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見との共通点・相違点を意識する。 ○思ったこと、質問したいことなどのメモをとる。 <p>(討論する時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○討論は「言い合い」ではない。相手の立場も考えながら結論を出す。 	<p>学習課題</p> <p>互いの立場や考えを尊重しながら話し合おう。</p>	<p>よりよい結論を導く討論をする</p>
--	--	-----------------------

9 生徒の変容

(1) 研究実践前の生徒Iの様子

生徒Iは授業の前に行ったアンケートの中で「あなたは、話している相手と意見が違った時、どうしますか?」という質問に対して「相手を傷つけないので自分の主張はあきらめ相手の意見を尊重する」と回答していた。「話すこと」に対しての苦手意識があり、自分の主張を相手に伝えようと努力することなくあきらめる傾向にあった。以下は、研究実践前に生徒Iが「病院・警察へのAIの導入について、どちらを優先すべきか」という問題に対し、自分の主張をまとめた記述である。



生徒Iは自分の考えを導き出し、しっかりとした意見を持っていることがわかる。ただ、その意見を相手が納得するように話し、考えたことのすべてを伝えることが課題であった。実際に討論を行う前に討論の良い例と悪い例を教師モデルとして示し、討論とは決して「言い合い」ではなく、主張の根拠となる材料を発表し合う場であると指導した。教師モデルを示したことで、討論のイメージをつけさせ、また主張するためには根拠となる資料が必要であることを意識づけさせることができた。根拠となる資料はICT機器を使用し、興味深く調べ学習に取り組むことができていた。(仮説1)

※生徒に提示した教師モデル（討論の良い例と悪い例）

良い例 司会「これから討論を始めます。まず、お互いの主張を発表してもらいます。A君からお願いします。」

A君「僕は書店にAIを導入することについて賛成します。なぜなら、現在の書店の仕事を調べたところ、棚に本を並べたり店内の清掃やレジ業務など、人ではなくロボットを使った方が効率も良く人件費もかからないという事がわかったからです。」

司会「では次に、B君の主張をお願いします。」

B君「僕は書店にAIを導入するのは反対です。なぜなら、僕はよく書店を利用するのですが欲しい本がどこにあるかわからない時に店員さんに相談したり、話題の本を紹介してもらったりと、店員さんがいてくれることで安心して書店に行くことができているからです。また、店頭にある手書きのPOP紙なども楽しみで、手書きではなくワープロで書かれたものではあまり魅力を感じないのではないかと思います。」

司会「それでは2人の主張を聞いたところで、それぞれ意見があれば挙手をして発言してください。」

A君「はい。B君の主張の中で欲しい本がどこにあるかわからない時などは、店員に聞くよりも、コンピューターを利用した方が時間的にも早く確実なのではないかと思います。」

司会「今の意見に対してB君はどう思いますか。」

B君「はい。確かにその場合はAIを使った方が良いという意見もわかります。ただ、機械的に処理されてしまうよりも人との会話を楽しみながら本を見つけたい時もあることを付け加えておきたいです。」

司会「いろいろと考え方はあるかと思いますが、お互いの意見を聞いてどう思いますか。」

A君「書店にAIを導入することについては、全ての業務をAIに任せるのではなく、人が必要とされているところは、そのまま店員さんによる業務とし、効率の良さを求める業務についてはAIにするという方法が良いのかなと思います。」

B君「僕も同じように感じています。全てをAIにしてしまうとったら、書店にも行きづらくなるなど思いましたが、部分的であればAIの導入もありかなと思います。」

悪い例 司会「これから討論を始めます。」

A君「僕は書店にAIを導入することに賛成します。なぜなら、どう考えても効率が良くなるし、人がいなくちゃいけない理由が見つからないからです。」

B君「僕は反対です。だって書店業務をロボットがこなせるとは思えないからです。」

A君「ロボットをあまく見ないでください。けっこういろんなことができます。」

B君「具体的には何ができるっていうのですか。」

司会「ちょっと待ってください。相手の主張の納得がいけない理由を話してください。」

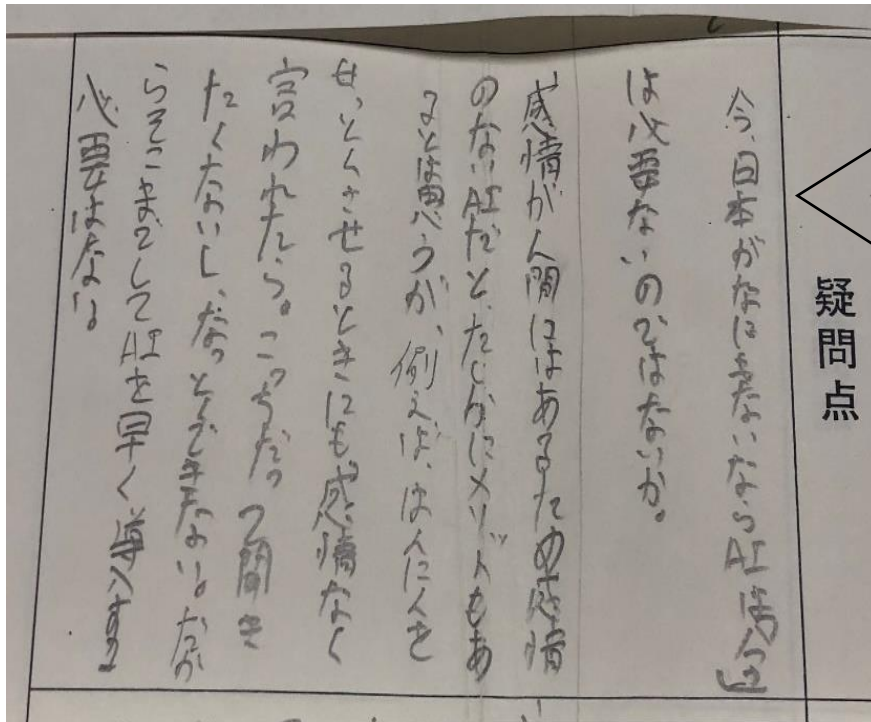
A君「今の時代、人にできてAIにできないことはないと思います。人がやらなくてはいけない理由が説明できるなら、具体的に説明してほしい。説明できないのなら、B君の主張には納得がいきません。」

B君「納得がいけないみたいなので、僕の意見は認めてもらわなくてもいいです。」

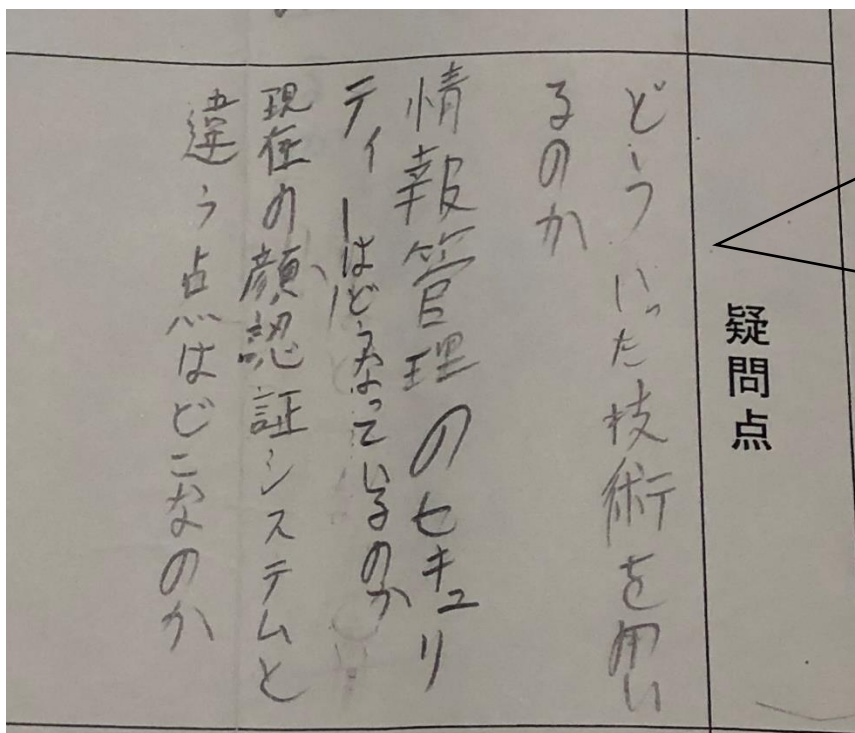
司会「それでは討論を終わりにします。」

(2) 研究実践の生徒Iの様子

生徒Iは討論の中で、「AI導入について病院よりも警察を優先すべき」という自分の主張を根拠をまとめた自分のノートを見ながら班員に向けて発表した。発表を聞いた班員から寄せられた疑問点は以下の通りである。

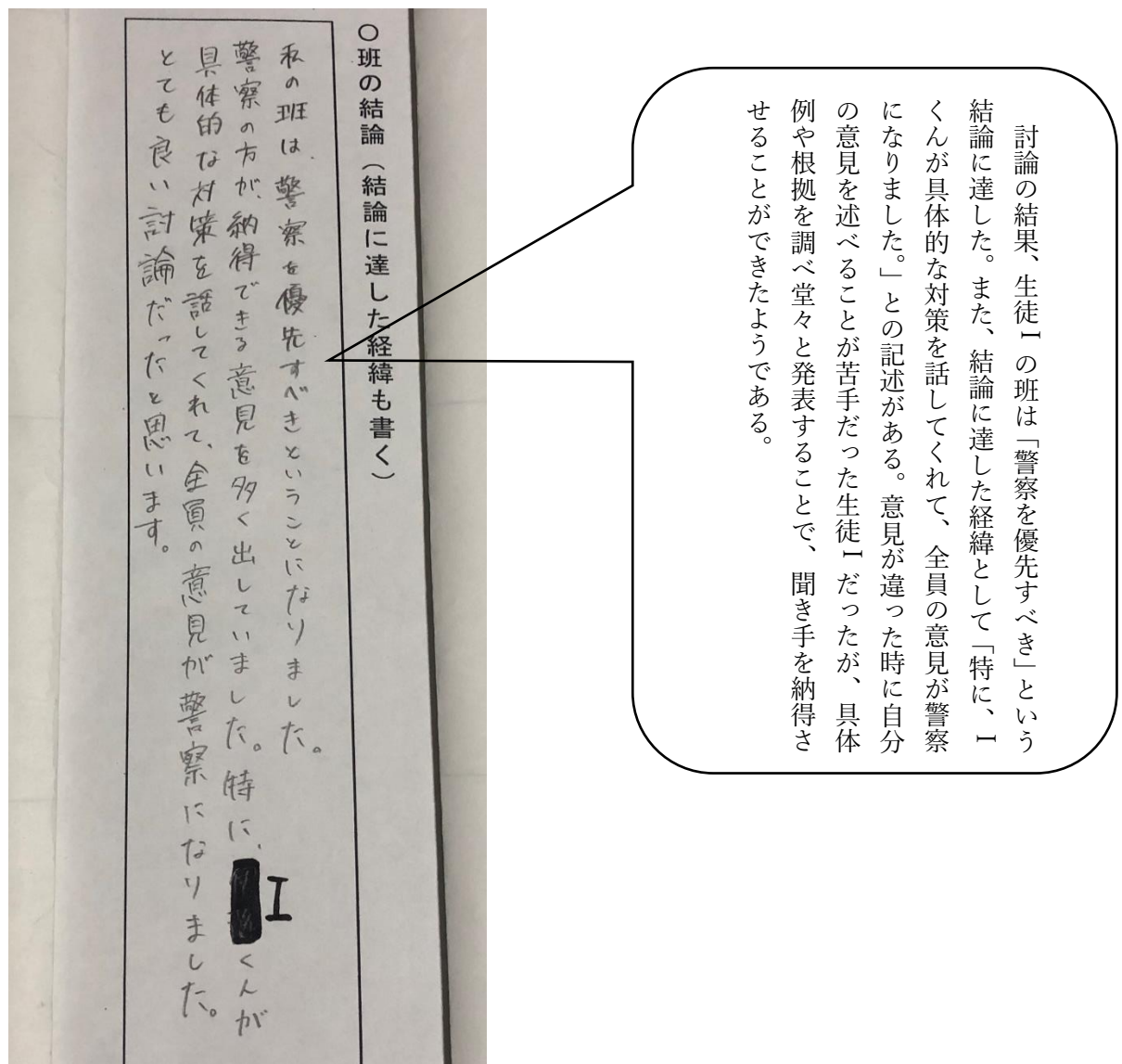


「警察を優先すべき」とした生徒Iの意見に対して「今、日本がなにもないならAIは必要なのではないか。」という記述があり、警察にAIを導入した際のデメリットについても述べている。



生徒Iの発表に対して、「どういった技術を用いるのか。情報管理のセキュリティとはどうなっているのか。現在の認証システムと違う点はどこなのか。」など、多くの疑問を抱えていることがわかる。

班員からの疑問点に対し、改めて ICT 機器を使い主張の根拠や具体的な具体例をまとめることができた。生徒 I は自分の主張について調べた資料をもとに丁寧に説明を行った。具体的な対策についてもタブレットを使って調べ、根拠も合わせて発表していた。その際、相手の立場も考えながら「たしかに今、AI を導入していなくても円滑に警察の業務が進められているという事実もあります。」と話した後で「しかし、警察業務の効率を考えた時に AI を導入し、削減できる人件費が多くあるのだと思います。」と堂々と答えることができていた。(仮説 2) その後、生徒 I の班の結論は、AI 導入について優先すべきは病院よりも警察である。となり、討論の経緯については以下の通りである。



(3) 研究実践後の生徒 I の様子

研究実践前は「相手と意見が違った時には自分の意見はあきらめる」と言っていた生徒 I であったが、「よりよい結論を導く討論をする」という授業の中では、しっかりと自分の主張を述べることができ、聞き手を納得させられる発表ができた。相手の意見も聞き入れながら主張し合い、根拠を持って話すことで、意見が違った時にもお互いが納得する結論を導くことができることを実感することができたと思われる。

6 成果と課題

実践を行った生徒に対して令和3年度全国学力・学習状況調査と同様の調査をした結果は以下の通りである。

【生徒質問用紙集計結果】

1. 当てはまる
2. どちらかといえば当てはまる
3. どちらかといえば当てはまらない
4. 当てはまらない

質問 番号	質問事項	選択肢			
		1	2	3	4
(28)	学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	69.8	26.6	2.0	1.5
		(+7)	(+7)	(-1)	(-3)
		63.1	29.3	3.0	4.5
		57.8	35.0	4.8	2.3
		60.4	32.8	4.5	2.2
(38)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	23.6	59.7	13.5	3.0
		(+5.9)	(+11.2)	(-13.8)	(-3.1)
		17.7	48.5	27.3	6.1
		25.7	47.7	21.5	4.8
		26.3	48.3	20.5	4.6
(44)	国語の勉強は大切だと思いますか	63.8	30.6	4.5	1.0
		(+12.3)	(-5.3)	(-3.5)	(-3.5)
		51.5	35.9	8.1	4.5
		57.0	33.4	7.0	2.5
		60.0	31.6	6.0	2.2
(46)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	58.2	36.1	4.0	1.5
		(+10.2)	(+2.8)	(-10.1)	(-2.5)
		48.0	33.3	14.1	4.0
		49.3	37.0	10.1	3.3
		53.7	35.0	8.4	2.7

- 1 段目：実践後の学校生徒の割合 (%) 2 段目：令和3年度の学校の生徒数の割合 (%)
3 段目：都道府県(公立)の生徒数の割合 (%) 4 段目：全国(公立)の生徒数の割合 (%)

質問 (38)、(44)、(46)に対して、実践後の調査では「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた生徒の割合は、増加していることが分かる。実践後の感想の中でも、「話すこと・聞くこと」の力を入試や社会に出た時に役立てたいと記述した生徒も複数名いることから、国語の学習に対して意義を見出すことができる生徒が増えたことはひとつの成果である。

できた。

- Microsoft Teams は、提出物の回収を容易にでき、評価も効率的に行うことができた。
- Word を活用したことで、原稿の推敲を効率的に行うことができ、推敲前と後の原稿の比較も視覚的におこなうことができた。
- タブレットで動画を撮影することで、自分の発表を客観的に振り返ることができ効果的であった。
- PowerPoint は大きなスクリーンで発表する際には効果的だが、生徒たちの持っているタブレットでは画面が小さすぎて見えにくい部分があった。
- タブレットによる動画撮影は、集音性が低く音声が取れないので、マイク等の備品が必要であった。
- ICT を効果的に使える場面の見極めをしなければならない。
- カメラで撮ることで、聞き手意識がしにくいという面もあった。

〈仮説2〉

少人数グループを形成し、意見交流の仕方を工夫することで、自分の思いや考えをもって伝え合うことができるとともに、自身の思考を深めることができるだろう。

- 少人数グループにしたことで、日ごろ発表が苦手な生徒でも意欲的に発表を行うことができた。
- 少人数を相手に話すことで間近で反応を見ながら話すことができ、より相手意識をもちながらより分かりやすい発表をしようとする意識を高めることができた。
- 「一言でまとめる活動」は他者の意見を集中して聞くことが必要不可欠なので、聞き手を育てるうえで非常に効果があった。
- 評価票は、自分の発表がきちんと伝わったかどうかを振り返ることができ、思考を深めるという点においてとても効果的であった。
- 少人数グループでの発表はある程度できるようになってはいるが、全体での発表ができるかという検証授業を行っていないので、今後検証を行う必要がある。
- グループ数が多く、同時に発表を行うと、声が聞き取りにくくなってしまった。
- 「聞く力」の変容を追えるとよい。
- 1年生の発表において、各自でテーマを考えてのスピーチは興味関心を高めるうえでは有効であるが、文章推敲の工夫が課題であった。同じテーマでスピーチさせることで、自分自身だけでなく、生徒同士での推敲が可能であると考えた。
- 2年生の討論の授業の中で、班の結論を見出す際にワークシートへの記入のみで結論を出すことになったが、結論に至った経緯を動画におさめるなどして振り返る時間の学習も行えるとよい。
- 3年生の活動においては、原稿をつくらずにメモ書きだけで発表を行わせたが、原稿をある程度作らせた方が推敲をしたあとが見えて、より正確な検証結果が得られたと考える。